

2022 年度 環境経営レポート

対象期間:2022年 7 月 21 日～2023年 7 月 20 日



株式会社 広野

2023 年 10 月 30 日

目次

1. 会社概要
2. 環境経営方針
3. 組織体制
4. 環境負荷の状況および中期目標
5. 環境経営目標及び計画
6. 環境活動目標の実績および結果・評価
7. 目標達成手段の取組状況
8. 環境関連法規への遵守状況の確認及び違反、訴訟等の有無
10. 代表者による全体の評価

1. 会社概要

【事業所名】

株式会社 広野 代表取締役 廣野 徹

【所在地】

本 社:富山県富山市針原「中町」356 TEL:076-451-1818

大阪営業所:大阪府枚方市楠葉並木 2-22-1
樟葉ビル 306 TEL:072-868-7738

東京営業所:東京都千代田区神田錦町 1-5
金剛錦町ビル 2F TEL:03-5577-3842

【事業内容】

卸売業(医薬品製造機械、包装機械等)

建設業(機械器具設置工事 許可番号 (特-30)第 11990 号)

【事業規模】

創 業:1962 年 9 月 1 日

設 立:1970 年 7 月 21 日

資 本 金:3,500 万円

従業員数:39 名(役員を含む)

売 上 高:3,483 百万円 (2023 年 7 月期)

	本 社	大阪営業所	東京営業所	合 計
従業員(役員含む)	30 名	4 名	4 名	38 名
延床面積	1607.46 ㎡	100.17 ㎡	71.34 ㎡	1778.97 ㎡

【EA21 認証申請範囲】

全社(本社・大阪営業所・東京営業所)

【環境管理責任者】

廣野 徹 (代表取締役)

【環境関連連絡先】

〒931-8431 富山県富山市針原中町 356

TEL:076-451-1818 Fax:076-451-8108

e-mail:somubu@hironoinc.co.jp

2. 環境経営方針

【基本理念】

株式会社広野は、環境の改善は企業の社会的責任であることを認識し、その業績を通じ、人々の健康増進と幸福に貢献するとともに、会社の繁栄と調和を目指します。

【基本方針】

株式会社広野は、その事業の発展的継続の中で、環境との共生・調和が重要なテーマであることを認識します。変化する経営環境の中で、現在あるいは今後の経営課題とビジネスチャンスを踏まえ、全社をあげて環境経営の継続的改善に努めます。

【行動計画】

1. 具体的に次のことに取り組みます。

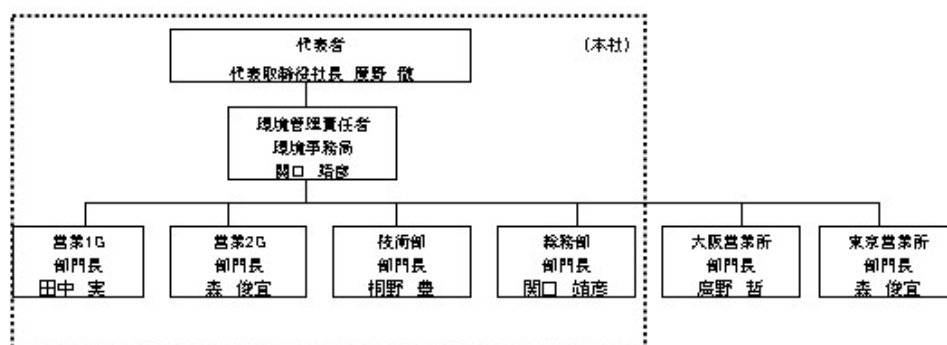
- ① 省電力化による二酸化炭素排出量の削減
- ② 自動車燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- ③ 水資源の節水
- ④ 廃棄物削減および再利用の推進
- ⑤ 環境に配慮した商品提案の推進

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

制定日：2022年4月11日
改定日：2023年8月1日

代表取締役社長 廣 野 徹

3. 組織体制



	役割・責任・権限
代表者(社長) 環境経営管理責任者	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境経営管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営活動計画書を確認及び承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境経営活動レポートの確認及び承認 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認 ・特定された緊急事態への対応のための手順書の確認及び承認
環境管理責任者 環境経営事務局	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営活動計画書原案の作成 ・環境経営活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付) ・特定された緊急事態への対応のための手順書作成
部門長	・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営活動計画の実施及び達成状況の報告 ・テスト、訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加

4. 環境負荷の状況及び中期目標

環境方針 (ターゲット)	環境目標項目	基準年度 2020年度		中 期 目 標		
				2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量の削減	電力の二酸化炭素排出量削減		基準年度比	98%	82%	81%
		34,308 Kg-CO2	目標値 Kg-CO2	33,622 Kg-CO2	28,133 Kg-CO2	27,789 Kg-CO2
	自動車燃料の二酸化炭素排出量削減		基準年度比	99%	98%	97%
		101,009 Kg-CO2	目標値 Kg-CO2	99,999 Kg-CO2	98,989 Kg-CO2	97,979 Kg-CO2
廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	シュレッダーゴミ・段ボールの廃棄量把握無し	基準年度比	99%	98%	97%
		1,020 Kg	目標値 Kg	数量把握	7,916 Kg	7,836 Kg
	産業廃棄物の削減		基準年度比	99%	80%	59%
		1,980 Kg	目標値 Kg	1,960 Kg	1,188 Kg	1,168 Kg
節水	水道使用量の削減		基準年度比	99%	50%	49%
		430 ㎡	目標値 ㎡	426 ㎡	215 ㎡	211 ㎡
製品・サービスへの環境配慮	環境に配慮した商品提案		基準年度比	125%	150%	175%
		4件	目標値	5件	6件	7件

※ 二酸化炭素排出係数は0.465で計算

※ 一般廃棄物は2020年度～2021年度は、シュレッダーゴミ及び段ボールの排出量を把握できていないため、2022年度の実績をもとに、2023年度以降取り組む。

◎自社で、化学物質の使用はありません。

5. 環境経営目標及び達成手段

環境方針	環境目標項目	基準値 (基準年度)		年度毎目標・達成手段 (取組の自己チェックを踏まえて策定)			
				2022 年度	2023 年度	2024 年度	2024 年度
二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量の削減	電力の二酸化炭素排出量削減	73,781 kWh 34,308 kg-CO2 2020 年度 二酸化炭素排出係数 0.465	基準年度比 98% 目標値 33,622 kg-CO2	82% 28,133 kg-CO2	81% 27,789 kg-CO2	・前年度実績を踏まえ、デマンド監視の導入を検討する。
		自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	ガソリン 41,418 ℓ 軽油 1,907 ℓ 101,009 kg-CO2 2020 年度	基準年度比 99% 目標値 99,999 kg-CO2	98% 98,989 kg-CO2	97% 97,979 kg-CO2	・照明器具の間引き点灯の実施や、不要な照明、空調の消灯・停止、社員の意識向上を目指す。
		一般廃棄物の削減	1,020 kg 2020 年度 新基準 8,078 kg 2022 年度	基準年度比 99% 目標値 1,010 kg	99% 2022年度比 7,997 kg	98% 2022年度比 7,916 kg	・照明器具の間引き点灯の実施や、冷暖房温度の適正化により、社員の意識向上を目指す。
		産業廃棄物の削減	1,980 kg 2020 年度	基準年度比 99% 目標値 1,960 kg	60% 1,188 kg	59% 1,168 kg	・前年度実績を踏まえ、デマンド監視の導入を検討する。
廃棄物排出量	廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	1,020 kg 2020 年度 新基準 8,078 kg 2022 年度	基準年度比 99% 目標値 1,010 kg	99% 2022年度比 7,997 kg	98% 2022年度比 7,916 kg	・前年度実績を踏まえ、デマンド監視の導入を検討する。
		産業廃棄物の削減	1,980 kg 2020 年度	基準年度比 99% 目標値 1,960 kg	60% 1,188 kg	59% 1,168 kg	・前年度実績を踏まえ、デマンド監視の導入を検討する。
		節水	430 m³ 2020 年度	基準年度比 99% 目標値 426 m³	50% 215 m³	49% 211 m³	・前年度実績を踏まえ、デマンド監視の導入を検討する。
		節水	430 m³ 2020 年度	基準年度比 99% 目標値 426 m³	50% 215 m³	49% 211 m³	・前年度実績を踏まえ、デマンド監視の導入を検討する。
水使用量	節水	節水	430 m³ 2020 年度	基準年度比 99% 目標値 426 m³	50% 215 m³	49% 211 m³	・前年度実績を踏まえ、デマンド監視の導入を検討する。
		節水	430 m³ 2020 年度	基準年度比 99% 目標値 426 m³	50% 215 m³	49% 211 m³	・前年度実績を踏まえ、デマンド監視の導入を検討する。
		節水	430 m³ 2020 年度	基準年度比 99% 目標値 426 m³	50% 215 m³	49% 211 m³	・前年度実績を踏まえ、デマンド監視の導入を検討する。
		節水	430 m³ 2020 年度	基準年度比 99% 目標値 426 m³	50% 215 m³	49% 211 m³	・前年度実績を踏まえ、デマンド監視の導入を検討する。
製品	製品への環境配慮	環境に配慮した商品提供	4 件 2020 年	基準年度比 125% 目標値 5 件	150% 6 件	175% 7 件	・前年度実績を踏まえ、デマンド監視の導入を検討する。
		環境に配慮した商品提供	4 件 2020 年	基準年度比 125% 目標値 5 件	150% 6 件	175% 7 件	・前年度実績を踏まえ、デマンド監視の導入を検討する。
		環境に配慮した商品提供	4 件 2020 年	基準年度比 125% 目標値 5 件	150% 6 件	175% 7 件	・前年度実績を踏まえ、デマンド監視の導入を検討する。
		環境に配慮した商品提供	4 件 2020 年	基準年度比 125% 目標値 5 件	150% 6 件	175% 7 件	・前年度実績を踏まえ、デマンド監視の導入を検討する。

6. 環境活動目標の実績および結果・評価

項目 基準年度実績	2022年度度			
	目標	実績	達成率	
電力の削減 基準年度実績 73,781 kWh 2020 年 34,308 kg-CO2 使用する二酸化炭素排出係数: 0.465	72,305 kWh 33,622 kg-CO2	59,578 kWh 27,704 kg-CO2	117.6%	・目標比5,918Kg-CO2削減。 ・事務室の照明をLED化した効果が具現化。 ・次年度より、目標を見直したい。
自動車燃料の削減 基準年度実績 2020 ガソリン 41,418 ℓ 軽油 1,907 ℓ 101,009 kg-CO2	41,004 ℓ 1,888 ℓ 99,999 kg-CO2	41,493 ℓ 1,898 ℓ 101,159 kg-CO2	98.8%	・6月に営業車1台をハイブリッド車へ更新し、年度で3台をハイブリッド車へ更新。 ・年間では目標比1,313Kg-CO2オーバーとなった。次年度に向け、ハイブリッド車への更新を進めるとともに、省燃費運転意識を高める必要がある。
一般廃棄物の削減 基準年度実績 2020 年 1,020 kg ※シュレッダーゴミ、段ボールは未把握のため除く	1,010 kg	8,078 kg	-599.8%	・シュレッダーゴミ・段ボールリサイクル分 6,978Kg(基準年度は数量把握無し)、可燃ごみ・木屑が1,100Kg。 ・比較可能な可燃ごみ・木屑で目標比 102Kgオーバーとなった。
産業廃棄物の削減 基準年度実績 2020 年 1,980 kg	1960 kg	621 kg	168.3%	・目標比1,339Kg減。 ・要因として取扱商品によるもの、社内分別による意識の向上と思われる。
水道水の削減 基準年度実績 2020 年 430 m³	426 m³	210 m³	150.7%	・目標比216m³減。 ・自動水栓設置効果によるもので、次年度より目標を見直したい。
環境配慮製品の開発・販売促進 基準年度実績 2020 年 4 件	5 件	5 件	100.0%	・実績5件 ・目標は達成したものの件数は少なく、引き続き意識づけの向上を行う。

※2022 年度の総二酸化炭素排出量は、129,533kg-CO2 でした。

7. 目標達成手段の取り組み状況

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価（結果と今後の方向）
電力による二酸化炭素排出量の削減		
社員の意識づけ	○	今年度は、前年度に行った照明のLED化により、大幅な削減となった。 今後は、一層社員の意識の向上を図り、地道な取組を進める。
不要な照明・空調の消灯、停止	○	
夜間・休日のPC・プリンターの電源OFF	○	
照明器具の間引き点灯	△	
冷暖房温度の適正化（暖房25℃、冷房28℃）	△	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減		
始業点検の励行（タイヤ空気圧）	△	今年度中に、ハイブリッド車へ3台変更。引き続き更新時には、低燃費車へ変更してゆく。 営業量や、出張量などにも左右されるが、社員の意識を引き続き高めてゆく。
急加速・急停車の防止	○	
効率的なルートで配送	○	
冷房の控え目使用	△	
燃費の良い車両の購入（更新時）	○	
一般廃棄物の削減		
社員の意識づけの向上	△	シュレッダーゴミ及びガボールの年間廃棄量を把握できたので、今後、今年度廃棄量を基準として取り組む。 裏紙利用は従来より定着。ドキュワークスの利用はほぼ定着した。 今後、帳票見直しを検討したい。
廃棄量の把握	◎	
帳票見直しによる印刷物の削減	×	
ドキュワークスによるFAX印刷の削減	○	
産業廃棄物の削減		
社員の意識づけの向上	○	素材別廃棄ボックスの使用により、廃棄物の分別はほぼ定着できた。 販売商品の梱包材が主体となり、販売量にもよるが、引き続き、社員の意識を高めて取り組む。
素材別廃棄ボックスの設置	◎	
作業ミスによる廃棄量の削減	○	
節水		
社員の意識づけの向上	○	トイレの自動水栓設置により、大幅な改善となった。 使用量自体が少なく、軽視しがちだが、引き続き社員の意識を高めて取り組む。
節水シールの貼り付けとポスター掲示	×	
節水弁取り付け	×	
環境配慮製品の販売促進		
社員の意識づけの向上	○	引き続き、メーカーの協力も含め取り組む。

8. 環境関連法規への遵守状況の確認及び違反、訴訟等の有無

環境法規制等の 名称/略称	規制内容			適用	実 施		確認
	届出、作業等	適用範囲	適用条件		手続き・遵守事項		
廃 棄 物 処 理 ・ リ サ イ ク ル							
廃棄物処理法	産業廃棄物の委託処理	産業廃棄物	汚でい、廃油、廃ブラ、建設木くず、建設紙くず、建設繊維くず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類、ゴムくず、コンクリート破片など「石綿含有（重量比0.1%超）産業廃棄物」「リース業に係る木くず及び運送用パレットに係る木くず」（平成20年4月1日施行）	○	委託基準 1. 委託先の許可確認	○	
				○	委託基準 2. 委託契約の締結 3. 契約書の5年間保存	○	
				○	マニフェストの交付 1. 交付義務	○	
				○	・ マニフェストの交付 ・ 回収・照合（発行後B2, D票90日E票180日以内） ・ A, B2, D, E票保管（5年間） ・ 未回収戻り票の報告 ・ 「交付状況報告」（前年度実績、毎年6月30日までに）	○	
				○	・ 「処理困難通知」の受理	○	
	廃棄物の保管	廃棄物の保管場所の設置		○	廃棄物の保管場所の表示が必要 （60cm×60cm）	○	
容器包装リサイクル法	建設工事全般	一般廃棄物		○	市町村が定めた分別の基準に従い容器包装廃棄物も適正に分別排出する	○	
家電リサイクル法	特定家庭用機器の排出 （作業所あるいは詰所の家電が対象）	特定家庭用機器		○	小売店へ料金を支払い引き渡す又は自治体指定の方法で引き取り依頼する	○	
小型家電リサイクル法	使用済小型電子機器の排出（作業所あるいは詰所の小型家電が対象）	使用済小型電子機器 （25分類）		○	具体的な回収品目や回収方法は市町村により異なる。	○	
消防法		消防用設備等を設置した建物	非特定防火対象物	○	消防用設備等を設置した建物には年2回の設備の点検と所轄の消防署へ3年に1回（非特定防火対象物）の点検結果の報告	○	
労働安全衛生法		エレベーター		○	定期自主検査の実施（1か月ごと）	○	
		フォークリフト		○	定期自主検査の実施	○	
		ホイールローダー		○	定期自主検査の実施	○	
大 気 汚 染							
フロン排出抑制法	機器の所有者（管理者）によるフロン漏えい点検	業務用冷凍空調機器	簡易点検：全ての業務用冷凍空調機器 定期点検：7.5KW以上の業務用エアコン、冷凍冷蔵機器等	○	簡易点検：3か月に1回以上点検・整備の記録	○	

※ 法規制等の違反はなく、関係機関からの指摘、訴訟等はありませんでした。

また、外部からの苦情もありませんでした。

9. 代表者による全体の評価

	報告(環境管理責任者)	コメント・提案(環境管理責任者)	評価・指示事項・変更の必要性(代表者)
環境目標の達成状況、環境活動計画の実施及び運用結果	① 二酸化炭素排出量: △4,605kg-CO2 (二酸化炭素目標比) ・電力の削減 目標値:33,662kg-CO2 実績値:27,704kg-CO2 △5,918kg-CO2 大幅な目標達成	・照明のLED化により達成 ・2023年度目標を現状実績に合わせて見直しを提案する。 ・目標を基準年度比: 98% ⇒ 82%	今年度実績を踏まえ、目標を修正すること。 変更の必要性: 有
	・自動車燃料の削減 目標値:99,999kg-CO2 実績値:101,312kg-CO2 △1,313kg-CO2 目標未達成	目標を達成できなかったものの、営業車3台をエコカーに更新しており、その効果も具現化すると思われる、現状の目標を継続する。	引き続き、現状通り取り組むこと。 変更の必要性: 無
	② 廃棄物削減 ・一般廃棄物 目標値:1,010kg 実績値:8,078kg 7,068kgのオーバー 大幅な目標未達成	基準年度はシュレダーゴミ、段ボールの実績が未把握だった2022年度に実績を把握した実績(8,078kg)を基準年度に見直す(翌年は1%削減で設定)	今年度実績を踏まえ、目標を修正すること。 変更の必要性: 有
	・産業廃棄物 目標値:1,960kg 実績値:621kg △1,339kg 大幅な目標達成	段ボールなど分別を徹底することで大幅な削減ができた。現状に合わせて見直しを提案する。 ・目標を基準年度比: 99% ⇒ 60%	今年度実績を踏まえ、目標を修正すること。 変更の必要性: 有
	③ 水道水の削減 目標値:426m3 実績値:210m3 △216m3 大幅な目標達成	自動水栓の設置等により、大幅な削減ができた。現状に合わせて見直しを提案する。 ・目標を基準年度比: 99% ⇒ 50%	今年度実績を踏まえ、目標を修正すること。 変更の必要性: 有
	④ 環境配慮商品の販売促進 目標値:5件 実績値:5件 目標達成	引き続き、メーカーの協力も得ながら推進する。 次年度は中期目標通り6件で継続する。	営業部員の取組意識を高め、推進すること。 変更の必要性: 無
環境方針経営	【行動計画】1-① 現地審査において「省電力化の具体的な施策の記述は計画に落とし込む」と推奨された。	【行動計画】1-①の省電力化の具体的な施策の記述を削除することを提案する。	提案通り環境経営方針を見直すこと。 変更の必要性: 有
実施体制	当社の実施体制を組織体制に示す。	特に変更なし	特になし 変更の必要性: 無

前年度、事務所等の照明のLED化、FAX印刷のPDF化、素材別産廃ボックスの設置、自動水栓の設置など、設備面で前倒しで実施したことにより、今年度その効果が具現化し、電力消費量などで大幅に改善できました。

今後とも、環境マネジメントに対する姿勢を大事にし、取り組んでゆくことが大切です。

全社員の意識の持ちようにまだばらつきが感じられますが、引き続き各リーダーのもと、一人ひとりが自覚をもって目標達成に向けて取り組んでゆきたい。

2023年9月21日

株式会社 広野
代表取締役社長 廣野 徹